

嵯峨宮頼り

第3号

嵯峨宮：群馬県みどり市大間々町小平 348 番地

発行日：2019年12月25日

発行：嵯峨宮世話人会

来年も宜しく
お願いします

平成三十一年は平成最後の年となる一方、名前はまだまだわからないが新元号の元年でもある。元号を使用する公文書はその切り替に今から周到な準備に入っていることだろう。経済格差、外国人労働者受入、トランプ米国大統領に振り回される世界等々懸念材料は枚挙にいとまないが、新元号に相応しい良き歳となることを願わずにはいられない。

さて当神社も本年は激動の一年だった。前総代が病に倒れ、新組織が七月に誕生して五ヶ月、ピンチをチャンスと捉え、これからの五十年百年を見据えて「嵯峨宮も変わります」を合言葉に全てをゼロベースで見直し、目的を以てやるべきことを計画的にハード・ソフトの両面からチャレンジしてきた。ハード面では①変な階段作成、②石段ズレのモルタル目地埋め、③石段手摺設置、④屋根瓦破損修復、⑤本殿外壁腐食修復、⑥鳥居足腐食防止、⑦屋根メンテナンス用梯購入と葉掻き棒製作、⑧絵馬掛・おみくじ結び衝立設置、⑨「語らざる」板台設置、⑩埋蔵祈願地への階段製作、⑪境内周辺木障（さ）伐り、⑫掲示板・文書置台設置、⑬外壁塗装、⑭電飾設置、⑮外灯のLEDランプ化等々。

ソフト面では①嵯峨宮由来・歴史・建造物の説明揭示、②「嵯峨宮頼り」発刊、③「語らざる願い」地に埋め春ぞ待つ」設定と看板作成、④第一回埋蔵祈願式挙行（鎌倉時代の武士の衣裳直垂（ひたれ）及び烏帽子作成）、⑤おみくじ設置、⑥349番地を宅地から境内地へ地目変更、⑦348番地の境界確認、⑧嵯峨宮看板設置（小平の里他）、⑨財政健全化取組等々。又今後の主な改善計画はハード面で①本殿床板の張替え、②外壁の追加補修・塗装、③脇スロープの設置、④境内周辺追加木障伐り等、ソフト面では①揭示物の多国語化、②ホームページ作成、③絵馬の作成、④小平創生の道ウォーキング、⑤埋蔵祈願地拡充、⑥防犯等を予定。皆様のご理解・協力をお願い申し上げます。

御礼参り

初めての埋蔵祈願式が無事終わってへとへとになった翌日の朝、神社見廻りの帰りに初老の男三人組が嵯峨宮の階段を登って行くのを見かける。さては祈願式の日にちを間違えたのか、と後を追いかけた。三人はでんでんにお賽銭を入れ鈴を鳴らし柏手をし、社殿の横に回り込んで何やら話している。「随分変わりましたね、以前来た時はこんなの無かった。」と埋蔵祈願式の事は知らない様子。「以前サクラソウ（カッコソウ）を見に来た、たまたま神社があったので寄ったが何も書かれてなくて分らなかつた。でもこの巨木の二本杉が只の神社ではないと感じて・・・、実は今日は御礼参りに来ました。以前来た時私達は三人共まだ孫がいなかった。そこで孫が出来よう祈ったら三人共孫に恵まれたんです。」好い話を聞かせて頂いたと御礼申し上げ神社の由来など説明した。「子孫繁栄」、何よりの御利益である。



「絵馬掛け、解体した山同家土蔵の折れ釘を使用。

「埋蔵祈願式」挙行

嵯峨宮「埋蔵祈願式」は十六日(日)十一時より嵯峨宮境内地において奥沢宮司及び世話人会役員十名で厳かに執り行われました。また六十名の皆様の

願いが叶う様役員一同心より祈り埋蔵させて頂きました。

埋蔵祈願には小平の氏子は勿論、小平の里及びその関係の方々他、大間々、笠懸、東、桐生、太田、館林、茨城と広く参加頂きました。

幸いマスコミ(桐生タイムス)の取材も受け、私達の想いを十分に汲み取った記事を掲載して頂きました。

小平創成の道
ウォーキング

山田郡誌によれば藤原定房と武士七名は京を出て鎌倉、奥州(平泉か)へ向い帰路に小平へ辿り着いたとある。欧州から京へのこの道は古くは前九年の役(1062年)で安倍宗任が虜囚として通った道であり、会津・日光經由

で渡良瀬川に沿って下る途中、山に入り小平に着いたと推察される。東地区と小平を結ぶルートは幾つかあるが今回は大畑・茂木ルートを三月中旬に歩くことを予定している。多くの方の参加を望む。(阿直)

原点に返ろう

700年前の開村時のび埋蔵祈願



神社の敷地内に祈願書を埋め、集落存続の誓いを新たにした(みどり市大間々町小平の嵯峨宮敷地内)

小平の
嵯峨宮
温故知新で集落存続誓う

過疎化や少子高齢化による人口減に悩む集落の住民らが16日、約700年前に開村した

先人をしのんで原点に返ろうと、当時行われたとされる「埋蔵祈願」の儀式を復活させた。主催したのは、みどり市大間々町の小平地区住民。地元の神社「嵯峨宮(さがくう)」の敷地内に祈願書を埋め、神事を行い、温故知新の精神で集落存続の誓いを新たにした。

山田郡誌などによると、小平地区の開村は鎌倉時代末期の嘉暦(かき)のころ、約1326(かき)年間で、村を開いた先人たちが祈願書を埋蔵し、その上に同神社を建立したこと

が始まりとされる。林業や養蚕で栄えた時期もあったが、現在は少子高齢化が進む典型的な山あいの集落に。2015年の国勢調査人口は259人で20年前に比べて39.6%に激減し、高齢化率も39.8%と高い。埋蔵祈願式は、約700年前の12月に行われたとされる古例になら、存続危機をみんなで乗り越えようと、同神社の氏子でつくる嵯峨宮世話人会(赤石雄平総代)が地区住民に呼びかけて実施した。

和装束に身を包んだ氏子や地区住民ら参列者約20人は、本殿北の急斜面上がった場所に穴を掘って神事を奉

行。持ち寄った祈願書を埋め、参列者代表が口上を述べて集落存続への誓いを新たにしました。

口上では「全国の山村が廃村の危機に直面し、小平も例外ではない。知恵と勇気と行動力をもって村創成の原点に返りたい。古例にならうって祈願書を埋蔵し、希望の芽が地上に出ることを祈る」などと述べた。

参列した氏子の阿久津直司さん(68)は「開村700年の節目にあたる2026年に向けて、集落存続に向けてさまざまな活動をした。第一歩を踏み出すことができてうれし

い」と笑顔で語った。